

令和元年第1回相馬市総合教育会議議事録

1 開催日時

令和元年2月10日（月）

開会 午前9時30分

閉会 午前10時30分

2 開催場所

相馬市役所 3階 庁議室

3 出席した構成員

相馬市長	立谷秀清
教育長	堀川利夫
職務代理者	宗形明子
教育委員	森陽子
教育委員	関根進
教育委員	菅野明彦

4 欠席した構成員

なし

5 事務局関係

（相馬市）

企画政策部長	宇佐見清
企画政策課長	渡邊学

（相馬市教育委員会）

教育部長	神戸伸一
生涯学習部長	赤石澤珍夫
総務課長	只野聡一
学校教育課長	松本一宏
学校教育課主幹	目黒信浩

6 傍聴人

なし

7 協議事項

（1）重点的に講ずべき施策について

- ① ICT環境整備の今後について
- ② プログラミング教育について
- ③ 食育上の課題（市内児童生徒の健康に関すること）について
- ④ 相馬市子ども科学フェスティバルについて
- ⑤ 相馬フォロアーチームの現状と課題について

（2）その他

8 議事の経過

1 開 会（企画政策課長）

2 市長あいさつ

3 協 議

（1）重点的に講ずべき施策について

① I C T環境整備の今後について

○協議結果 今後、4年間で整備を進めていく

○協議内容

只野聡一総務課長 （別紙資料により説明）

立谷秀清市長 ポイントは、4年で行うということ。今後かかるお金は、ソフト代。標準的なソフトは無償で付与される。特別なソフトは、有料となるが、相馬市には必要ないと考えている。

②プログラミング教育について

○協議結果 国の指針に沿って検討していく

○協議内容

松本一宏学校教育課長 （別紙資料により説明）

立谷秀清市長 タブレットP Cについては、マイクロソフト社つまり基本ソフトはWindowsである。Windowsは理解しやすい。プログラミング教育は、Windowsで行うのか。プログラミング教育は、OSそのものの理解やコンピューターの仕組みから行うのか、または、プログラミングの使い方だけを教えるのか。コンピューターの仕組みとなるとWindowsでないと理解できないのではないのか。

宇佐見清企画政策部長 プログラミング教育に用いるスクラッチというプログラミング言語は、Javascriptで作られているため、インターネット上で動くスクリプトでありOSは影響しない。ここで大事なのがプログラムを作るのではなく、プログラミングで動いているということを学ぶこと。

菅野明彦委員 そもそも学校で支給しているiPadの扱いはどうするのか。

只野聡一総務課長 現在、各学校に導入されているiPadについては、今後も最大限活用していく。今回の端末導入にあたり、国からOSはグーグル、アップル、マイクロソフトの3社が示されている。教育委員会で今後、どのOSにしていきたいのか検討していきたい。

立谷秀清市長 プログラミング教育については、先ほどあったようにOSは関係ない。国は、マイクロソフトつまりWindowsを主流としている。OSも今後そのようになっていくと考えられるため、今後の国の流れに沿って行っていく。

③食育上の課題（市内児童生徒の健康に関すること）について

○協議結果 これからも検討を重ねていく

○協議内容

松本一宏学校教育課長 （別紙資料により説明）

立谷秀清市長 食育の根本は朝昼晩ちゃんと食べることだと以前から言ってきたが、実態はできていない家庭が多いのが現状。特に育ち盛りの中学生が食べてこないのが理解できない。肥満傾向については、保護者が子どもの送り迎えをする

ようになったことが要因として考えられる。健康のために集団登校を推奨した方がいい。健康の内容については、東京農大の指導に従った方がいい。保護者には適切な情報を提供していくべき。市が朝食を提供するところまですべきなのか。これは、保護者に対しての啓発にはなと思う。今回は、朝食未摂取等の正確な数字を調査したことは意義がある。今後も継続して注視していく。

菅野明彦委員 朝食摂取と肥満傾向等の相関の調査や分析も行っていくべき。

立谷秀清市長 朝食摂取の肥満率、朝食未摂取の肥満率、主食のみ摂取の肥満率等の調査や分析も行うべき。また、震災後の小学生の送り迎えが増え肥満率増加したこと、それが復興でどう改善していくかの調査分析も必要なのでは。

関根進委員 朝食について、最後は保護者次第なのでは。そこが一番難しい。

立谷秀清市長 事業者も朝食のことを考えるべき。朝食次第で従業員の作業効率が全く違う。企業にも協力してもらい幼少期から朝食の習慣をつけることも必要。調査データの分析、対応策を考える。保護者には集団登校の推奨や意見を取りまとめ、適切な情報提供する。

森陽子委員 肥満について調査するには、朝食だけではなくおやつの調査も行うべき。また、学力との因果関係も調査してほしい。

④相馬市子ども科学フェスティバルについて

○協議結果 来年度も開催に向け調整していく

○協議内容

松本一宏学校教育課長 (別紙資料により説明)

立谷秀清市長 例えば、I H I 相馬工場がどれだけ凄いエンジンを作っているかというのを、子どもたちにわかって欲しい。このまま、継続して尽力してほしい。

⑤相馬フォロアーチームの現状と課題について

○協議結果 今後も継続して課題解決に向け努力していく

○協議内容

松本一宏学校教育課長 (別紙資料により説明)

立谷秀清市長 心のケアについては、震災10年経過した後も、継続していく。フォロワーチームについては、原発自治体から避難している家庭の子どもたちが不安定、それが要因で教育現場も不安定、さらには、津波災害を受けた子どもたちにも何らかの要因を及ぼしている、遅発性PTSDの可能性も懸念される。

(2) その他

(委員から特になし)

事務局：前回の相馬市総合教育会議の議事録について、内容のご確認をいただいておりますが、修正点、ご意見がございましたので市ホームページに掲載をさせていただきます。